

平成25年度

千葉市健康づくり推進協議会
第1回8020運動推進部会
議 事 録

保健福祉局健康部健康支援課

平成25年度千葉市健康づくり推進協議会第1回8020運動推進部会議事録

1 会議の名称

平成25年度千葉市健康づくり推進協議会第1回8020運動推進部会

2 開催日時

平成26年1月27日（月） 午後7時から午後8時30分

3 開催場所

千葉市美浜区幸町1-3-9
千葉市総合保健医療センター 4階 会議室

4 出席者

(1) 委員

金子充人委員（部会長）、関根務委員（副部会長）、木屋和彦委員、杉崎幸子委員、岡部明子委員、高橋秀夫委員、井上孝委員、北山洋一委員、畠山一雄委員、木村多恵子委員、木川茂雄委員、藏屋勝敏委員、鶴澤禮子委員（委員13名中13名出席）

(2) 事務局

山口淳一保健福祉局医監、豊田健康部部長、角田君枝健康支援課課長、古屋晴子健康支援課担当課長、田中悦子保育運営課指導係長、渡辺茂徳中央保健福祉センター健康課課長、中村宏保健体育課課長補佐、鈴木隆子健康支援課課長補佐

5 議題

- (1) 部会長及び副部会長の選出について
- (2) 千葉市の歯科保健対策の現状について
- (3) 健やか未来都市ちばプラン（歯・口腔の健康）の推進について
- (4) その他

6 議事の概要

冒頭、事務局から、千葉市健康づくり推進協議会設置条例第7条第7項の規定により、委員の半数以上の出席があるため、会議が成立している旨の説明があった。

- (1) 部会長及び副部会長の選出について
委員の互選により、金子会長を部会長に、関根委員を副部会長に選任した。
- (2) 千葉市の歯科保健対策の現状について
事務局から千葉市の歯科保健対策の現状について説明を行った。
- (3) 健やか未来都市ちばプラン（歯・口腔の健康）の推進について
事務局から健やか未来都市ちばプラン（歯・口腔の健康）の推進について説明を行った。
- (4) その他
今後の審議日程について事務局から説明を行った。

7 会議経過

(1) 部会長及び副部会長の選出について

千葉市健康づくり推進協議会設置条例第7条7項の規定に基づき、委員の互選により、会長及び副会長を選任した。

選任にあたっては、委員から、部会長に千葉市歯科医師会会長である金子委員を、副部会長に千葉市医師会顧問である関根委員をそれぞれ推薦する旨の提案があり、当該提案のとおり承認された。

(2) 千葉市の歯科保健対策の現状について

事務局から、資料1-1「千葉市の歯科保健対策の現状（健診等の実績）」により、ライ

フステージ別に歯科的特徴・問題点、歯・口腔の健康づくりのための取組み内容、歯科保健対策事業実績について説明を行った。また、事務局から、資料1-2「千葉市民の歯・口腔等の状況」により、幼児期・学齢期の歯科保健の状況（う蝕有病者率）、幼児（1歳6か月児・3歳児）健診におけるう蝕有病者率（年次推移・政令市における比較）、3歳児のフッ化物応用の状況（歯面塗布者率・歯みがき剤の使用率）、学齢期の歯肉の要観察・要精検者の割合、12歳児の一人平均う蝕本数（年次推移・政令市における比較）、12歳児のう蝕有病者率の年次推移、平成21年度から開始された妊産婦歯科健診の実施状況（受診率・受診結果）、歯周疾患検診の実施状況（受診率、歯間部清掃用具の使用状況）、歯並び一健口教室の事業、事後総合評価の結果についての説明を行った。また、事務局から、資料1-3「千葉市の課題についての取組み」により、千葉市の歯科保健の課題（子どものむし歯が多い、妊産婦・歯周疾患検診の受診率が低い、口腔ケアに対する普及啓発活動が十分ではない）に対するこれまでの取組みについて説明を行った。

【質疑応答等発言要旨】

<委員>

今回、幼稚園協会加盟園の職員向けに歯についての講演会を実施する予定がある。今後は定例化していきたい。また、昨年から幼稚園協会でも歯科嘱託医への補助金制度を設けた。嘱託歯科医師による保護者向けの指導をしていきたい。フッ化物洗口は、園で実施したいが、職員は知識不足のゆえ実施することに関して不安があるようだ。わかりやすく実施方法等の説明をしてもらえる機会があるとよい。

<委員>

歯科医院を受診する小・中学生は多くはないと感じている。口の中を清潔にするために指導等の対策が大切である。歯科医院へ歯みがき指導を受けに数回かよい、自分の口に合った歯みがき法を身につけてほしい。学校定期歯科健康診断後に結果によっては早期受診が望まれるが、その対策はどうか。

<事務局>

小中学校では、定期健診後の早期受診勧奨を保護者宛てに手紙でしている。様々な保護者がいて、すぐに受診させない家庭もある。今後も働きかけを工夫していく。

<委員>

市の歯科衛生士が学校に出向いて歯みがき指導をしてくれている。奥歯の多くがむし歯であり、すぐに治療してほしい子がいる。しかし、母親に何回も受診を勧めているが未受診である。口腔内は非常に悪い状態であり虐待に値するかと思う。児童相談所に通告しようかどうかと悩む。親への受診勧奨が伝わらず難しい時がある。

<委員>

歯肉炎がある子はむし歯になりやすい。子どもが自分の健康は自分で守る意識を持ち、効果的な歯みがきができるようになってほしい

<委員>

小学校では、秋の歯科健診があり意識づけが高まっている。歯みがきカレンダー等を利用し、歯みがきの指導をしている。保健委員会ではおやつ・ジュース等の摂取についての知識を楽しみながら得ている。今後は歯みがきソングを作ろうと考えている。高学年からは、永久歯のむし歯予防と合わせ歯肉炎予防にも力を入れていきたい。学校保健安全委員会では学校医に歯科保健について指導していただいている。

<委員>

奥歯の歯肉にも気を配れる指導をしてほしい。

<部会長>

高校や大学では歯科保健指導は実施されないので、小中学校で徹底的に歯肉の大切さを教えるしかないという意識で指導をしていただきたい。他の課題としては、高校・大学となると夜間平気で物を食べるようになってしまうこと。また、1.6歳でむし歯ができることは異常である。3歳でもあのように増えてしまうことはありえない状況である。12歳児の1人平均う蝕

数が1本以下だからよいということではなく、有病者率が10%以下になるような対策をお願いしたい。

(3) 健やか未来都市ちばプランの推進について

事務局から、資料2「健やか未来都市ちばプラン（歯・口腔の健康）の推進について」により、むし歯予防、歯周病予防、口腔機能低下予防の3つの課題ごとに、千葉市、関係機関・団体等別に今後の取組みの方向性の説明を行った。

【質疑応答等発言要旨】

<委員>

歯科医師会では、千葉市歯周疾患健診受診率の向上をめざして「歯周病は万病のもと！！」というPRポスターを作成し歯科医院や保健センター等で掲示する予定である。歯周病は糖尿病や、心筋梗塞等の全身疾患との関係性があるので、掲示については医師会のご協力を得たい。

<委員>

医師会としても是非協力したい。しかし、医師会内ではまだ口腔ケアに関する意識が低い。歯科医師会から医師会への強い働きかけを期待する。

<委員>

歯科医師会は、歯周病と糖尿病の強い関係を問題視しているので、医師会と歯科医師会の医療連携を図りご協力を賜りたい。

<委員>

最近千葉市内でも歯科保健に取り組んでいる事業所がある。口腔ケアについての講習会の開催希望があるので、医師会や歯科医師会の先生方のご協力が得られるとよいのではないかと考えている。

口腔機能低下予防の取組みとして、千葉市では口腔ケア事業を行っているが、口腔機能評価・指導を行なっている歯科医師が元気アップコースの事業を知らないこともあるようだ。各区健康課で行っている各教室の結果をフィードバックしてほしい。また、幼児期は口腔機能の発達段階に応じての食べ方の問題があるので、歯科医院で相談できるとよい。また、歯科医院で相談できることを広めていただきたい。

<委員>

東京歯科大学では、医師会・歯科医師会と医療連携を進めながら、フッ化物の有効性、口腔ケアの重要性、また糖尿病との関係性等を研究しているので市民の方へわかりやすく説明できると考えている。口腔ケアセンターを4月に立ち上げる予定があるので利用してほしい。

日本には29の歯科大学がある。千葉市には東京歯科大学があるにも関わらず数字が悪いことには責任を感じている。歯科大学の有無に関わらず、関係者のご努力・モチベーションに尽きると思うので、その一躍を担えるのであればいつでも声をかけていただきたい。

<委員>

介護予防事業である脳の健康教室終了後のフォローの場として、脳トレの勉強会を開催している。そこで健康課から教わった「ちばはつきり言葉エクササイズ」「スマイルアップちば体操」を行い口腔機能の維持・向上に取り組んでいる。まだ体操の必要性、重要性を知らない方がいたり、千葉市歯周疾患検診を知らない方もいるので広めていきたい。

<委員>

健康課の歯科衛生士に口腔ケアについての話をしてもらっている。口腔ケアの必要性は理解しているが、きちんとケアできていないこともあり、再度きちんとケアしていこうと思う。歯科医院で歯間ブラシの使い方を指導されることもあるが、定期的に受診をすることが、痛い思いをしなくてよいことにつながっていると実感している。学校でも歯科受診の必要性を子ども達に伝えてほしい。また、東京歯科大学の歯科衛生学科の学生さんから歯みがき指導を受ける機会が孫にあった。学校の先生以外の方から教えてもらうことは効果的だ。

<部会長>

8020運動が25年前に始まった当時は8008ぐらいの状況であったが、昨年辺りは

8014までになった。地道に頑張っていきたい。

<委員>

口腔ケアについてのビデオは解りやすく効果的であると感じている。新しい媒体等があるなら紹介してほしい。

<委員>

最新のビデオはないが、フッ化物応用についての新しいパンフレットを作成したので利用してほしい。

<委員>

フッ化物応用のパンフレット内容もビデオにしてほしい。

<委員>

健康支援課のホームページに歯間ブラシの使い方等の動画リンクがあったが、サイトにたどりつくまでに時間がかかった。アクセス件数の検証、定期的な更新を行ってほしいし、更新していることの周知もしてほしい。また、幼稚園、老人ホーム等のホームページにリンクを貼るなりして活用を広げてもらいたい。

<事務局>

11月初めから、先週まで期間の千葉県歯科保健サイトへのアクセス件数は159件だった。更にアクセス件数増加に向けて工夫をしていきたい。

<部会長>

市民の歯や口の健康を守ることは大変重要なことである。今後も各所属において健やか未来都市ちばプランの推進にむけての取組みを更に検討し、実行していただくことでよいか。

<委員>

はい。

<委員>

今後も歯科医師会はフッ化物洗口の実施に向けて取組みを推進していきたいのでご協力いただきたい。

<委員>

千葉県内の他市町村において4月から小・中学校全校でフッ化物洗口を実施する予定がある。千葉市でも是非実施していただきたい。

<委員>

なぜ、千葉市ではフッ化物洗口の実施ができないのか。民間私学はもとより、なんとか公立の保育所、小中学校において実施できないのかと常々思っている。是非実施をお願いしたい。

<委員>

千葉県歯科衛生士会では千葉県から委託を受けて8020運動推進の取組みを実施する中でフッ化物普及推進事業として講演会を開催している。精神疾患がある方への歯科保健の情報が行き届いていないと感じることが多い。歯科医師会の先生のご協力を得て歯科保健情報を広めていきたい。

<委員>

高齢者の介護施設に出向くことがあるが、施設での口腔ケアはどうなっているのか。

<委員>

千葉県下では、施設で働く方へ口腔ケアについての講習会をしている。

<委員>

施設でも口腔ケアを進めていかななくてはならないのか。

<委員>

今後、重要性が増すので推進していく予定である。

<事務局>

小・中学校におけるフッ化物洗口の実施は何度も出ている話題ではある。教育委員会でもフッ化物がう歯の予防に効果があることは十分認識している。しかし、一斉に学校で実施することは考えていない。実施に向けての検討をしないというわけではないが、すぐに実施できない理由の一つは、フッ化物に対して賛成の方もいるが根強く反対する方がいるので、学校が実施するとなるとハレーションが起きる可能性があるからだ。関係団体の協力を得て説明を

していく中で、徐々に理解を得ていく必要がある。両極端の考えを持っている人がいるということが実施しよう思わない一番の理由である。他にフッ化物洗口液の中にはアレルギーを起こす可能性があると一部言われていて、先般の食物アレルギーの件があったことから、そのことに非常に敏感になっている人もいる。十分な説明をしていかななくてはならず、今すぐの導入は難しいと考えている。う歯予防に効果があることは認識しているので今後は検討していきたい。

<委員>

歯科医師会の勧めもありフッ化物洗口を実施したいと思っている。幼児期にとってフッ化物配合量が多すぎる歯みがき剤があり事故が起きた時どうするのかというのなら、そうならない物を開発してほしい。歯科医師会から洗口の実施をすすめられて実施したが、何かあったら始めた施設の問題とされても困る。良いことだったら是非実施したらよい。開始の判断を各園でと言われても困る。

<委員>

フッ化物自体によるアレルギーはないと考えている。また、洗口については飲み込んでも問題がない量であることを認識している。

<委員>

全く害のない薬はない。研究レベルではフッ化物はもちろん歯を強化する。しかしながら多量に摂取すれば、骨や臓器に沈着するというデータはある。そういう物を読まれた方は非常にフッ化物に対して抵抗力をしめす方もいる。研究者の中にも推進派と反対派がいる。しかし、北ヨーロッパの国々では、キシリトールやフッ化物の効果で殆どむし歯がない。それが原因で寿命が短いとは聞いたことがない。安全量で実施するので問題はない。怖がる必要性はない。ただ様々な知識が交錯しているのは事実である。少しでも量が増えると骨に沈着する、甲状腺にもいくといったデータはあるが、それが引き金となってがんになるという報告はない。

<委員>

日本全国において、フッ化物洗口を実施しているところでは、洗口したくない子はしていない。強制的に洗口させるといったことはあり得ない。大勢の子が洗口しているのを見て始める子もいる。洗口ができない子も幼稚園ではいるので、できない子はやらせないし、飲みこんでも大丈夫な量なので心配いらない。がんになるというのは、反対派の意見でありエビデンスのないことである。というのが歯科医師会の考えである。

<委員>

これは、フッ化物洗口を実施していきましょうということによろしいですね。

<委員>

はい。

(4) その他

次回の部会は、次年度に予定していると事務局から説明を行った。

以上のとおり議事を進め、午後20時30分に閉会した。

以上

平成26年1月27日(月)開催の平成25年度千葉市健康づくり推進協議会 第1回8020運動推進部会の議事録として承認し、署名する。

千葉市健康づくり推進協議会 8020運動推進部会長

問い合わせ先 保健福祉局健康部健康支援課
電話 043-238-9926
F A X 043-238-9946
電子メール shien.HWH@city.chiba.lg.jp